

推進校別事業実績報告書

＜取組と成果のポイント＞

- ・ 道徳の時間の「かかわり合い」が、各教科等での「かかわり合い」に波及して、多様な「かかわり合い」の様相が生まれた。
- ・ 豊かな体験活動を通して、「かかわり合う」から「つながり合う」へと、子どもたちの人間関係が進展する場面も現れてきた。
- ・ 道徳的実践力の高まりが、他の学習場面や生活場面で、実際に行動する力に転化した姿を見ることができた。

1 推進校（又は推進地域）の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児 童 数	備 考
豊川市立東部小学校	豊川市三谷原町石坪1-1	0533(86)4368	490人	

2 研究課題

- (1) 他教科等との連携を図りながら、道徳教育の内容の重点化
 - ① 規則や公德を守り、公共心をはぐくむ道徳教育
 - ② 人間としての在り方・生き方の自覚を深める道徳教育
- (2) 道徳教育の計画的推進と道徳の時間の指導の工夫
 - ① 「心のノート」の効果的な活用
 - ② 道徳教育用教材の効果的な活用
- (3) 指導体制や家庭・地域との連携の充実
 - ① 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の在り方
 - ② 家庭・地域や学校運営協議会等の関係組織との一体的な推進の在り方

3 研究主題とその設定理由

「学ぶ喜びが味わえる授業をめざして」

—かかわり合いを通して学びを深めよう—

本校のめざす子どもの姿を

- ・ 「どうしてかな」という疑問を持ち、主体的に目標を設定し、積極的に働きかけていく子
- ・ 自分の経験や考えを駆使して、友だちとかかわり合いながら追求する子
- ・ 学びを様々な方法で他に伝えたり、自らの生活の中で実践したりすることのできる子
- ・ 「あ、そうか!」「なるほど」「できるようになった」など、驚きや感動、喜びを感じ、考えを深めることができる子

とし、各教科・領域はもとより、子ども同士、子ども対教師・家庭・地域等、様々な場でのかかわり合いを通して、その実現に向け取り組む。

4 研究の概要及び特色

(1) 研究仮説

公共心について、発達段階に応じた育てたい力を、各学年の道徳の重点目標に設定し、道徳の年間計画の見直しを図る。また、各教科、特別活動、総合的な学習の時間において、公共心をはぐくむための指導に関連する教材・題材の見直しを行い、年間計画に位置づけた。そうすることで、道徳の時間を要として、他教科等との連携を図りながら、学校教育全体を通して道徳的実践力を育成することで、本校のめざす子どもの姿に近づけられるであろうと考えた。

(2) 研究組織

道徳教育推進教師を中心に、研究推進部を組織し、低・中・高学年ブロックごとの授業研究会を中心に、全職員の共通理解を図る場を設定し、ブロックと全職員とが連携を図りながら

研究を進める。また、PTAや学校運営協議会などの関係組織とも連携し合いながら、公共心をはぐくむための体験活動を行った。

また、教員の指導力・力量向上に努めるため、ブロック別の代表者による授業研究会では、外部講師を招聘し、教材の有効な活用法や授業の手法等、研修を実施した。

(3) 研究構想

学校や家庭・地域の人々との交流の機会を設定して、自己のあり方や生き方を考え、集団や社会のために自主的に行動しようとする児童の育成を目指した。そのために、「公共心をはぐくむための指導」に重点を置き、道徳の時間の授業改善と体験活動の効果的な取り入れ方に焦点を当てて取り組んだ。基本的には、「教科等の授業→道徳の授業(逆になる場合もある)→体験活動→振り返り」という関連性を持たせ、学習したことが実践に結びつけられるような取り組みを行ってきた。道徳的实践力を育成するために、道徳の時間の充実を図るとともに、道徳的实践の場としての体験活動を有効に関連づけた実践を進めてきた。また、道徳の時間のみならず、各教科や特別活動、総合的な学習の時間とも関連づけ、それぞれの年間計画の見直しを図った。

(4) 研究課題にかかわる取組

修学旅行や野外活動、社会見学、校区内探検などの場において、現地で学習してくるだけでなく、公共心をはぐくむための手だてを取り入れた指導計画を立案した。また、家庭や地域との連携では、校区内の名人や老人養護施設「若葉の家」を訪問する活動を通し、交通マナーや訪問先での対応の仕方について、道徳の授業をはじめ教科や特別活動での話し合いなどの学習の場で深めるとともに、訪問先や保護者に公共心に関わる取り組みについての理解・協力を得て行った。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

道徳に関する質問調査結果から、「『道徳の時間』の勉強が好きだ、ためになると思う」という問いに対し、「そう思う」と回答した児童は、6.6ポイント上昇した。また、「人に親切にしたい」「人の役に立つ人間になりたい」という問いに対し、「そう思う」と回答した児童は、それぞれ3.2ポイント、4.2ポイント上昇した。「学校のきまりを守る」「人が困っていたら助ける」「あいさつをする」「木を折ったり、動物を傷つけることはいけない」といった項目については、否定的な回答が減り、肯定的な回答が増えた。係活動や児童会、学校行事についての質問に対しては、どの学年も意識が高まり、「そう思う」と回答したのが13.3ポイント上昇した。

日頃の児童の様子を見ていると、「公共の場」ということを意識した行動がとれる児童が増えてきた。あわせて、「働く」ということに目を向ける児童も高学年では増えてきた。また、お年寄りが喜んでもらえるために、自分たちにできることは何かを考え、行動に移す児童も増えてきた。

また、かかわり合いを通して、互いの意見を共感的に受け入れ、自分の考えと比較することで、より自分の考えが深まったり、広まったりした。

(2) 今後の課題と取組

道徳の授業に対する子どもたちの学習意欲の向上は顕著に見られたものの、「公共心」の高まりについては、その有意性を統計的に検証することはできなかったことが、課題としてあげられる。

今後の取組として、道徳教育を要とし、各学年を通じた道徳の指導の重点化を図るとともに、他教科との関連性について研究を深めていくことで、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養っていきたい。